# 平成24年度　普及活動成果集

*元気！　チャレンジ！　あさくらの農業*

福岡県朝倉普及指導センター

平成25年3月

# は　じ　め　に

長引く景気・経済の回復遅れ、輸入農産物の増大、国内農産物の消費減退及び価格の低迷等、農業を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いています。

福岡県では、農業・農村の持続的発展に向け、農業・農村振興基本計画を策定し具体的な施策を展開してきました。また、昨年3月には第3次の農業・農村振興基本計画が策定され、これをもとに当普及指導センターでは以下の６つの目指す方向を柱として、関係機関等と連携しながら課題解決に取り組んできたところです。

(1)ブランド化を通じ県農産物の競争力を高める
(2)多様な流通・消費に対応した生産、販売を推進
(3)若者や女性が活躍する農業経営を推進
(4)県民とともに「ふくおかの農業」をつくる
(5)女性の活躍、地域資源の活用で農業・農村を活性化
(6)災害に強い安全・安心な農業・農村をつくる

しかしながら、今年度は７月の梅雨前線豪雨により、当普及指導センター管内では2回にわたり豪雨に見舞われ、果樹、野菜、花き、水稲などの農業分野でも多大な災害が発生しました。その後、被災者の方々、関係機関一体となって懸命に復旧・復興に努めた結果、農業生産面ではほとんど回復しました。しかし、一部では流入した土砂の排除や崩壊した土羽の修復が終了していない所も見られており、今後関係機関と連携し、復旧・復興に努めて参ります。

この冊子は、当普及指導センターの取り組みを、農業者や関係機関等の方々に広く理解して頂くため、平成２４年度の主な活動成果について取りまとめたものです。

朝倉地域農業の振興と農業者の方々の経営改善の一助になれば幸いです。

平成２５年３月

朝倉農林事務所朝倉普及指導センター長　　林　公彦

# 目　　次

１　普及活動の主な成果
（１）永続的な土地利用型担い手の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
（２）カキ産地の再生をめざして・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
（３）経営感覚に優れた農業者の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
（４）水稲・麦新品種で水田農業を元気に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
（５）冬春キュウリの産地強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
（６）冬春ナスの産地強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
（７）切り花の産地力強化を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
（８）「とよみつひめ」の産地拡大を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
（９）４Hクラブの活性化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

２　トピックス
（１）6次産業化を目指して新商品開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（２）海外の普及事業へ支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（３）経営改善とさらなる技術力向上を目指して　・・・・・・・・・・・・・・・11
（４）「甘木の花」のブランド力の強化を目指して　・・・・・・・・・・・・・・11
（５）フルーツの里「朝倉」から新しいトップバッター現る　・・・・・・・・・12
（６）はばたけ！新農業人！　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

３　平成24年7月梅雨前線豪雨災害の概要と復旧に向けた支援　・・・・・・・13

４　参考資料
（１）管内の各種表彰農家の紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
（２）平成24年度主な展示ほの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
（３）平成24年1～12月の気象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
（４）現地活動情報等一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
（５）普及指導センターの活動課題と活動体制　・・・・・・・・・・・・・・・19

1．普及活動の主な成果

# （1）永続的な土地利用型担い手の育成

## ～筑前町の「人・農地プラン」作成・実践に向けた取り組み～

**【対象の概況】**

筑前町（水田2,280ha、基盤整備率77%、１戸当たり平均水田面積2.2ha）

**【課題化の背景】**

水田農業の担い手として、現在、筑前町内に8ha以上の大規模経営体26戸、農業法人の3法人及び集落営農組織の34組織（夜須地区19組織、三輪地区15組織）があります。

一方、都市化の進行、高齢化や後継者不足等による人や農地の問題が顕在化している中で、永続的な農業振興を図るための「人・農地プラン」の作成・実践が求められており、筑前町やJAと連携し取り組みました。

**【活動内容】**

１　「人・農地プラン」の作成の取組

・推進チームによる定期的な戦略会議開催

・プランのカバー範囲、プラン作成モデル地区及び検討会のメンバー等について検討

・モデル地区への説明会を開催

２　個別大規模経営体の育成の取組

・前年実施したアンケート調査を基に、個別にコンサルテーションを実施

＜地区への説明会＞

**【成果】**

１　「人・農地プラン」の作成

・米、麦、大豆のブロックローテーション等を考慮のうえ、プラン作成の範囲を決め、筑前町全体で13地区のプランを作成することとしました。

・さらに、4つのモデル地区を定め、モデル地区毎に将来の水田利用の方針やメリット措置等を説明し、地域の中心的な担い手の位置づけ、担い手への土地集積方法等の議論をスタートさせました。

２　個別大規模経営体の育成

・15経営体のコンサルテーションを実施し、規模拡大の意向や規模拡大を阻害している要因等を把握することができました。

＜土地利用図を示し説明＞

**【これからの取り組み】**

集落営農組織や個人大規模経営体等の地域の担い手に対し、別途アンケート調査を実施して意向等を把握します。プランを作成することにより、これらの担い手が地区内で認知され、経営規模拡大や農地集積が進むよう関係機関が一体となり支援していきます。

# （2）カキ産地の再生をめざして
## ～担い手の経営安定によるカキ産地活性化に向けた取り組み～

**【対象の概況】**

ＪＡ筑前あさくらかき部会（栽培面積389ha、部会員数521人）

**【課題化の背景】**

後継者不足に伴う管理不足、病害虫の発生による収量・品質低下・価格低迷が続く中で、カキ農家の所得は年々減少しています。一方、生産者の高齢化は急速に進んでおり、このままでは耕作放棄や荒廃園が急増し、産地の活力が急速に損なわれることが懸念されています。

そこで、関係機関と連携し、園地流動化推進及び荒廃園対策に取り組みました。また、優良品種の高品質化技術の確立、及び補完作物の推進等により、カキ農家の経営安定と産地の再生に向けた活動を行いました。

**【活動内容】**

１　園地流動化実践組織の育成
- 耕作放棄地及び荒廃園の実態調査
- 園地流動化委員会の設置
- 荒廃園地の伐採

２　優良品種の拡大
- 優良品種の販売促進
- 「秋王」現地実証試験ほの設置

３　冷蔵柿及び特選柿の拡大
- 園地登録及び園地査察会を実施

４　高品質安定生産技術の確立
- 「早秋」結実安定展示ほの設置

５　他品目果樹との複合経営農家拡大
- イチジク「とよみつひめ」新規栽培者説明会を開催

＜朝倉復興柿まつりでの販促活動＞

**【成果】**

１　園地流動化実践組織の育成
- 関係機関の問題意識の共有化と連携強化につながりました。
- 園地流動化班が中心となった伐採活動により、耕作放棄園や荒廃園が3.2haなくなりました。

２　優良品種の拡大
- 「早秋」は0.2ha、「太秋」は1.5ha栽培面積が増加しました。

３　冷蔵柿及び特選柿の拡大
- 冷蔵柿の出荷割合が12%から18%、特選柿出荷量が1tから3tに増加しました。

４　高品質安定生産技術の確立
- 10ａ当たりの収量が600kgから1,360kgとなり、700kg増加しました。

５　他品目果樹との複合経営農家拡大
- カキ生産者で「とよみつひめ」の導入農家が１戸（18a）増加しました。

**【これからの取り組み】**

カキの安定収量を確保するために、基本技術励行や天候に合わせた防除の徹底を図るとともに、園地流動化及び荒廃園対策の推進体制整備等に取り組んでいきます。

# （3）経営感覚に優れた農業者の育成
## ～認定農業者の経営力強化～

**【対象の概況】**

認定農業者、雇用導入による経営改善を目指す農家

**【課題化の背景】**

輸入農産物の増大、国内農産物の価格の低迷等、厳しい農業経営が強いられる中で、経営改善を図る上では、複合経営、規模拡大等の経営感覚のスキルアップが求められています。そこで農業者の個別相談や研修会を開催し、経営改善を目的とした雇用型経営の推進を行い、地域農業の核となる農業者の育成に取り組みました。また、認定農業者を対象に経営分析支援、カウンセリング及びコンサルテーションを実施し、経営管理能力の向上に努めました。

**【活動内容】**

＜雇用型農業経営研修会＞

1　地域農業の核となる農業者の育成

経営改善検討会を開催し、関係機関と連携して地域農業の核となる農業者育成のための具体的な戦略を検討しました。

経営改善計画の策定をはじめ、規模拡大や新規品目の導入による雇用型経営の確立に向けた個別指導や研修会を開催しました。

2　経営管理能力の向上

認定農業者を対象に経営分析支援、カウンセリング、コンサルテーションを開催し、技術・経営両面での改善支援を行いました。

**【成果】**

＜個別経営相談会＞

1　地域農業の核となる農業者の育成

経営改善計画の策定や個別指導を行った農家では課題が明確になり、経営改善に向け取り組んでいます。また、雇用型経営の確立に向けての課題が明らかになりました。3年間で雇用を導入した農家が12戸増加しました。

2　経営管理能力の向上

改善支援を行った農家では、この3年間に29戸が計画を達成しています。また、46戸が次年度の経営計画や売上目標を設定し、実践に向けて取り組んでいます。

**【これからの取り組み】**

産地の維持拡大を目的とし、企業的経営体や雇用型経営を目指す農家の育成支援について、関係機関一体となって推進します。

# （4）水稲・麦新品種で水田農業を元気に

## ～　高温耐性水稲「元気つくし」・ラーメン用小麦「ちくしW2号（ラー麦）」の導入と安定生産及び面積拡大への取り組み　～

**【対象の概況】**

管内　水稲栽培農家　2,838戸、　麦栽培農家　1,511戸　（平成23年産）

**【課題化の背景】**

近年、夏期の異常高温による米の品質低下が問題となっています。また、県内産小麦はほとんどが「うどん用」で、需要先が限られていました。そこで、平成22～24年に福岡県農業総合試験場が育成した高温耐性水稲品種「元気つくし」の導入による1等米比率向上と、ラーメン用小麦「ちくしW２号 」（ 商標名：ラー麦 ）の導入による新規需要開拓をめざし、栽培技術確立と生産安定に向けた活動を行いました。

**【活動内容】**

１　作付面積拡大の取り組み

・気象及び土壌条件に合った栽培技術を確立するための実証ほの設置

・栽培講習会の開催

・新品種の特性、栽培のポイント等の栽培ごよみ、営農情報等を活用した情報提供

２　収量・品質向上の取り組み

・新品種の特性を踏まえた栽培技術の普及

・「ちくしW2号」のタンパク質含有率の向上のための「穂揃い期追肥」徹底に向けた全ほ場の札立、巡回指導の実施

・栽培履歴の点検及びそれに基づく施肥改善指導

**【成果】**

１　作付面積の拡大

平成24年産の「元気つくし」栽培面積は506ha、平成25年産の「ちくしW2号」の栽培面積は136haにまで拡大しました。

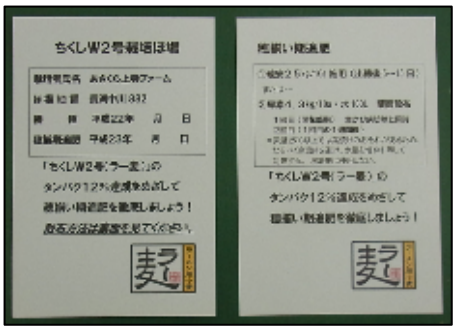
２　収量・品質の向上

「元気つくし」の1等米比率は平成22～24年産の平均で99.6%でした。「ちくしW2号」は実需者の評価が非常に高く、引き合いも強いことから、一層の生産拡大を求められています。

**【これからの取り組み】**

両品種とも地域の品種として定着してきましたが収量やタンパク質含有率の年次変動などの課題が残されており、今後も引続き収量・品質の安定及び向上を支援します。

＜黄金色に実る「元気つくし」＞




＜「ちくしW2 号」全ほ場に立てた立札＞

# （5）冬春キュウリの産地強化
## ～安定出荷及び経営改善に向けた取り組み～

**【対象の概況】**

ＪＡ筑前あさくら冬春きゅうり部会（作付面積5.3ｈａ、部会員数21戸）

**【課題化の背景】**

管内の冬春きゅうり部会は、生産者の高齢化に伴う部会員の減少や価格の低迷等により販売額が減少傾向にあります。平成21年9月に二つの部会が一つに統合され、これを契機に新しい選果機を導入するなど、選果と出荷の一元化が図られました。そこで、さらなる産地強化に向けて部会組織及び個別農家への支援に取り組みました。

＜ｽﾜﾙｽｷｰｶﾌﾞﾘﾀﾞﾆ＞

**【活動内容】**

1　高品質化と安定出荷

・毎月、全部会員のほ場巡回と現地検討会を開催

・定期的に土壌診断を実施し、その結果に基づいた適正施肥を指導

・天敵（ｽﾜﾙｽｷｰｶﾌﾞﾘﾀﾞﾆ）の展示ほを設置して効果の確認、定期的な病害虫発生状況調査と防除指導を実施

2　組織課題の解決

・ｴｺﾌｧｰﾏｰの目標達成状況を確認、再認定を支援

3　経営改善への支援

・毎年、経営分析・診断結果を基に経営相談会を開催し、個人毎に課題の整理、目標の設定及び達成に向けて支援

＜天敵定着状況調査＞

＜経営相談会の様子＞

**【成果】**

1　高品質化と安定出荷

・天敵の導入農家率が10%から80%に拡大して害虫の発生が減少し、栽培期間の延長、収量の向上が図られました。

・光合成促進装置の導入により、厳寒期の収量向上がみられました。

光合成促進装置の導入効果（12～2 月の収量kg/坪）

| | 平成２３年産 | 平成２４年産 |
|---|---|---|
| 導入あり | 27.8(130%) | 25.5(117%) |
| 導入なし | 21.4(100%) | 21.8(100%) |

2　組織課題の解決

・全部会員がｴｺﾌｧｰﾏｰを再認定されました。

3　経営改善農家の育成

・個人毎に設定した目標に向けて各自が改善に取り組んだ結果、天敵の利用、光合成促進装置の導入等が進み、収量・品質の向上が図られました。

**【これからの取り組み】**

高品質化と安定出荷については、光合成促進装置の導入により増収効果がみられたため、引き続き展示ほの調査を行い効率的な施用方法について検討し、収量・品質の向上に努めます。また、天敵の利用に当たっては、病害虫発生状況等情報提供を行い、防除効率を上げるよう努めます。

経営改善については、個別目標の達成に向けて継続して支援していきます。

# （6）冬春ナスの産地強化
## ～安定出荷及び経営改善に向けた取り組み～

**【対象の概況】**

ＪＡ筑前あさくら冬春なす部会（作付面積2.5ｈａ、部会員数11戸）

**【課題化の背景】**

管内冬春ナス生産は、販売単価の低迷や生産者の高齢化等により縮小傾向にあります。平成21年8月に二つの部会が一つに統合され、新しい選果機を導入して共同選果に移行したのを契機に出荷規格の統一化を図り、産地強化のために安定出荷及び経営改善に向けての取り組みを開始しました。また、県育成の有望系統品種の導入拡大のため、栽培技術の確立に努めて来ました。

**【活動内容】**

１　出荷安定技術の確立
- 基本管理を徹底させるため、毎月全部会員を対象に現地検討会を開催
- 毎月全部会員の土壌診断を実施し、診断結果に基づいた適正施肥を指導
- 県育成有望系統品種「省太」の展示ほを設置し、タイムリーな情報を全部会員に提供するとともに定期的に現地研修会を開催
- 先進地事例の調査研修会及び意見交換会を実施

２　経営改善農家の育成
- 毎年経営分析・診断を実施し、診断結果を元に個別経営相談会を行って各自の課題の明確化を図り、解決に向けた巡回指導を実施

＜品種検討会＞

＜経営相談会＞

**【成果】**

１　出荷安定技術の確立
- Ａ品率が69.4％（H21年）から76％に向上しました。
- 福岡県で育成された有望系統品種「省太」の導入面積が960坪（全作付面積の12.8％）に拡大しました。

２　経営改善農家の育成
- 経営相談会時に個人毎に明確な技術改善目標を立て、各自が１年間改善に向けた取り組みができるようになり、適正な水分管理のためのｐＦメータの設置、株元保温や光合成促進装置を導入する生産者が増えました。

**【これからの取り組み】**

有望系統品種については、単為結果性品種のため結実促進を目的としたホルモン処理やハチの導入が不要であり、省力化及びコスト削減の面で生産者からの期待が大きいので、栽培マニュアルを作成し、栽培拡大に向けて支援を行います。また、害虫防除について農薬の効果が低下しており、収量低下の要因となっています。そのため、他産地で行っている天敵利用について情報を収集し、試験を行っていきます。

# （7）切り花の産地力強化を目指して
## ～シンテッポウユリの共販出荷量拡大に向けた取り組み～

**【対象の概況】**

JA 筑前あさくら切花部会シンテッポウユリ研究会（生産者数５人、栽培面積 30a）

**【課題化の背景】**

JA 切花部会シンテッポウユリ研究会では、10 年以上にわたり共販に取り組んでいますが、高齢化による生産者の減少や、苗の老化や管理不十分により、年々生産量が減少し、産地としての生産力が低下していました。また、シンテッポウユリは出荷ピークが短期間で、収穫・調製作業に時間を要するため、個々の面積を拡大することが難しい状況にありました。

そこで、安定的な出荷のための栽培管理の見直し、雇用を活用した共同選別による選別作業の省力化、新規作付者の推進など、出荷量拡大による産地力強化に向けた支援を行いました。

**【活動内容】**

１　栽培管理の見直し
- 定期巡回指導と現地検討会を実施
- 初期生育時のかん水と適期防除を徹底指導

２　共同選別への支援
- 実施に向けた検討会の開催
- 共同選別の収支分析

３　新規作付者の推進
- JA 広報誌に推進資料を掲載
- JA と連携して、導入に向けた資料を作成し、新規作付説明会を実施

＜共同選別の様子＞

＜新規作付説明会の様子＞

**【成果】**

１　栽培管理の見直し
- 共販の規格に対応できる輪数の確保と秀品率の向上により、盆前の出荷量を確保することができました。

２　共同選別の取り組み
- ２名の雇用者と生産者の出役による共同選別に試験的に取り組みました。
- 収支分析に基づき、効率的な共同選別に向けた運営を提案しました。
- 選花基準の統一と、事前の出荷量等の情報発信により、市場への有利販売に繋がりました。
- 選別時間の短縮により、共販出荷割合が向上しました（46%→70%）。

３　新規作付者の推進
- 説明会に参加した６名のうち、１名が新規に作付することになりました。

**【これからの取り組み】**

今後も、共同選別の定着に向けた取り組みを継続的に支援し、調製作業の省力化による作付面積の維持・拡大や、新規作付者の推進を図り、産地強化を目指します。

# (8)「とよみつひめ」の産地拡大を目指して
## ～パッケージセンターの活用で個別経営規模拡大を推進～

**【対象の概況】**

JA筑前あさくらとよみつひめ部会（栽培面積　9.2ha、部会員数　82人）

**【課題化の背景】**

当管内で、「とよみつひめ」の作付け推進が始まってから既に6年が過ぎようとしています。これまで関係機関一体となった推進により作付けが毎年増加し当管内は県下最大の「とよみつひめ」産地となりましたが、ここ数年は増加率が鈍化しており、生産者１人当たりの栽培面積は10ａ程度です。

当管内の生産者は、ＪＡによるパッケージセンターの整備により収穫調製作業が不要であることから、10ａ当たりの労働時間は300時間程度と他産地よりも30%程度の省力化が可能となっています。

このため、経営安定と産地拡大に向け、栽培技術の向上を重点的に進めるとともに、個別経営規模の拡大を推進しました。

**【活動内容】**

１　産地拡大
- 各地域毎に新規栽培者に対する説明会や個別相談会を実施
- 他品目（カキ、ナシ、モモ等）との組み合わせによる複合経営を推進

２　安定生産
- 中古パイプハウスの活用による施設化を推進
- 栽培技術向上に向けて、現地査察会や栽培講習会を実施
- 高温等による異常成熟等、各種課題の解決に向けた現地実証ほの設置

＜パッケージセンター風景＞

３　経営改善
- 個別経営規模の拡大に向け、経営分析・診断等に基づく個別相談を実施
- 新規栽培者や植え付け２～3年目の生産者に対し、重点的に現地巡回指導や個別相談を実施

**【成果】**

１　産地拡大
- 「とよみつひめ」の栽培面積は、前年の9.2haから11.9haに増加しました。

２　安定生産
- 雨よけ等ハウス栽培面積は、前年の4.3haから5.2haに増加しました。

３　経営改善
- 一戸当たり栽培面積が20ａ以上の栽培農家数は、前年の14戸から18戸に増加しました。

**【これからの取り組み】**

今後は、個別経営規模の拡大に当たり、労働分散、品質向上、生産安定等の観点から施設栽培の推進を図るとともにと加温栽培技術の確立に向けた取り組みを重点化します。

# （9）4Hクラブの活性化

## ～プロジェクト活動の強化でクラブ員の力を引き出す～

**【対象の概況】**

朝倉市4Hクラブ15名、筑前町4Hクラブ8名、計23名のクラブ員

**【課題化の背景】**

クラブ員のプロジェクト活動については、これまで新年度5月の総会終了後からの取り組み開始であったため、12月の発表までの期間が短く、活動内容が限られることで、クラブ員個々の問題解決を中心とした課題が設定できず、プロジェクト活動そのものが希薄で、発表内容も不十分でした。そこで、24年度はプロジェクト活動（野菜・普通作、ナシ、イチジク、畜産の4部門）強化に向けた様々な取り組みを行いました。

**【活動内容】**

プロジェクト活動の内容と運営の見直し

・個々のクラブ員自身が抱える営農上の課題を整理させ、担当普及指導員と協議のうえ、課題解決のためのプロジェクト課題を設定。

・平成23年12月に各プロジェクトを立ち上げ企画し、24年1月から試験設計・事前準備を始め、課題に応じて順次、試験設置や調査を開始。

・水稲、イチジク及び畜産は単年度、ナシは複数年課題を設定。

**【成果】**

・プロジェクト課題の設定、試験計画、作物や栽培環境の観察、調査、結果のとりまとめ及び発表等一連の活動を通じ、学習意欲が高まりました。

・プロジェクト活動への参加が積極的になり、自ら改善策を考え出す力を高めました。

・生産改善プロジェクトについて、今年度は以下の3課題を発表まで導くことができました。

普通作部門　：「有機肥料を使った米つくり」
「稲作の基本、元肥と穂肥の意味を知る」
イチジク部門：「とよみつひめの品質改善技術の修得」

**【これからの取り組み】**

1　発表のスキルを洗練する

発表内容を絞り込み、明確な結論に導く構成とすることや、画面を見やすくわかりやすくする工夫をするなど発表スキル面をもっと洗練していきます。

2　長期的な視点に立ったプロジェクト課題を設定する

普及指導員の支援体制を固め基本技術の習得や直面する課題解決、将来的な経営設計など長期的な視点に立って課題を設定し、プロジェクト活動を組み立てていきます。

＜水稲の生育期調査＞

＜ナシの細根発生状況調査＞

## 2. トピックス

### （1） 6次産業化を目指して新商品開発

平成 24 年度から新たに福岡県女性農業者能力発揮事業が実施されています。朝倉普及指導センター管内では、本事業のうち新商品開発支援事業を活用して２組の女性農業者がそれぞれカキとタデの各加工品を開発しました。

＜カキ酢みその試作検討会＞

○事例１：カキ酢みその商品開発

カキ農家の３名の女性が、出荷できないカキを利用して、家庭に常備でき色々な食べ物に利用できる調味料としてカキの酢みそを開発しました。原料となるミソも朝倉市内で生産される麦と大豆を利用し、手作りで製造しました。

○事例２：タデを活用した加工品の開発

タデは日照不足等の天候不順により1割程度は廃棄処分されます。そこで、タデを染色の材料として活用することで、ショールやブラウス等の草木染被服を制作しました。これまで廃棄されていたタデも染色の原料として有効活用することで加工品として新たな商材となり、さらにタデ染めの商品販売で地域のＰＲにもつながりました。

朝倉普及指導センターでは女性農業者を対象に加工品開発活動を展開し、女性の所得確保に向けた活動を今後とも支援していきます。

＜タデで染めた商品とポスター＞

### （2） 海外の普及事業へ支援

9月13日に、アフリカのガーナ国で米の増収・品質向上のための技術指導に携わっている食糧農業省州農業事務所の職員6名が朝倉普及指導センターを訪れ、当センターでの普及計画作成と実践、集落営農法人での機械共同利用、大規模農家での米の品質管理等について研修を行いました。

普及計画については、県農業振興基本計画を柱に地域の課題を選定し、3年計画で課題解決を図っていることや、具体例として担い手育成や新品種導入の課題について説明すると、評価手法や農家への情報伝達方法、JAとの連携などについて次々と質問が出ました。

集落営農法人である朝倉市の大角ファームでは、「個々の経営規模が小さい兼業農家の集団では、メンバー全員で話し合い、皆で助け合う協同の精神が大切」との説明に感嘆の声が上がっていました。

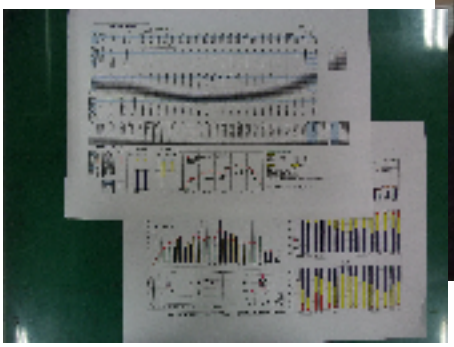
筑前町の大規模農家、井上喜隆氏（米麦大豆＋露地野菜、家族経営）宅では、ガーナの国産米は品質面で輸入米に劣る現状に対して、消費者を相手にした“商品としての米づくり”を通じた品質改善の重要性について説明していただきました。

＜井上氏親子とガーナ視察団の皆さん＞

## (3)経営改善とさらなる技術力向上を目指して

当管内では、JA 筑前あさくら三輪いちご部会、冬春きゅうり部会、冬春なす部会員全を対象に、経営改善と技術力向上を目的とした個別経営相談会を開催しました。経営相談会は、部会員１戸に対して普及指導員（野菜担当及び経営担当）とＪＡ営農指導員が、個別の対面形式で行いました。

相談会では、７月の豪雨災害の影響を含め、部会員個々の生産販売実績から本年の生産を振り返り、栽培における問題点の発見と次年産に向けた課題や目標を設定しました。また、青色申告の経営分析診断結果をもとに、収益性の変化や経費に無駄がないかなど農家が主体となって要因分析を行えるように支援しました。



＜経営相談会の様子と用いた生産資料＞

参加した部会員からは、「収量が下がった要因が分かった」、「土壌診断結果の見方が分かり、さらに肥料削減ができた」、「次年度の目標を明確にできた」、「普及指導センターや農協の指導通りに栽培して収量が向上した」などの意見が聞かれ、経営相談会への期待感が感じられました。

## (4)「甘木の花」のブランド力の強化を目指して

平成 24 年 10 月 26 日、JA 筑前あさくら鉢花部会は、鉢花流通センターにおいて第 5 回産地展示会を開催しました。展示会には 24 名の部会員が出展し、冬～春に向けての商品の展示を行いました。

普及指導センターでは、展示会の企画から円滑な運営に至るまでの総合的な支援を行うとともに商品紹介のチラシ作成、効果的なディスプレーなどの支援を行っており、鉢花部会員の商品展示技術も回を重ねるごとにレベルアップしてきました。

鉢花部会員は展示した自分のブースの商品を前に、来場された約 20 社の花き市場の担当者や買参人の方々と商品の情報提供、新しい商品づくりに向けた意見交換や具体的な商談などを行いました。

JA 鉢物部会では「甘木の花」のブランド力の強化に向け、産地情報を発信していきます。

＜商品ディスプレーと
商品について説明する鉢花部会員＞

## （5） フルーツの里「朝倉」から新しいトップバッター現る

これまでカキやナシを作りこなしてきた朝倉市内の果樹農家が、丹精込めて育てたハウスモモの出荷が６月から始まりました。今年は、３月中下旬の開花から収穫開始に至る５月下旬まで天候に恵まれたこともあり、果実糖度が 11 度を上回る例年以上に美味しいモモが出来上がりました。

ハウスモモについては、カキやナシ等の果樹農家を中心に、３年前頃から複合経営品目として作付けが始まり、現在は栽培面積が 80ａまで広がりをみせています。

従来、当センター管内から出荷される果実のトップバッターはスモモでしたが、ハウスモモは成園化に伴い、今年から加温時期を１月下旬に設定したことで、５月下旬頃からの出荷が可能となりました。ハウスモモは、産地のトップバッターとして、今年も、「朝倉の果実は、安心安全で高品質である」ことを消費者に認知してもらう重要な役割を担っています。

＜朝倉管内で栽培が増加しているハウスモモ＞

＜丹精込めて育てたモモを丁寧に収穫します＞

## （6） はばたけ！新農業人！

新規就農者が地域農業に携わる人との交流を深め、早期の経営安定につなげることを目的として、新規就農者、４Ｈクラブ員、県農大生及び朝倉光陽高校生を対象に、「新規就農者のつどい」を開催しました。

＜林英樹氏の講演＞

まず、朝倉市で青ネギと米麦を栽培されている林英樹氏に講演頂き、「業種には関係なく、本気で話し合える仲間がいることが重要」とアドバイスしていただきました。さらに、指導・青年農業士の各代表者からは、自分をしっかりと持ち、目標を決めて人より２倍頑張るようにとエールが送られました。

＜4 グループに分かれて意見交換＞

グループ討議では、「就農して困っていること」をテーマに意見交換を行い、新規就農者からは、「技術がないので先が見えず、不安だ」「作業や役割の分担が難しい」などの意見が出されました。

今後も各種講座や個別巡回を行うなど、新規就農者の早期定着に向け全力で支援します。

## 3　平成24年7月梅雨前線豪雨災害の概要と復旧に向けた支援

北部九州に停滞した梅雨前線の影響で、平成 24 年 7 月 3～4 日及び 7 月 13～14 日の 2 度にわたり、管内は過去に経験したことのない集中豪雨に見舞われました。

農業部門の主な被害は、中山間地域ではカキ畑を中心とした樹園地や水田の土砂崩れ、土砂や流倒木の流入、土砂の流出等がありました。また、平坦地では河川の氾濫や低地への雨水流入により生産途中の青ネギやチンゲンサイ、花き類、イチジク等の作物が冠水、浸水したため収穫ができなくなりました。一方、水稲は、幸い冠水時間が長時間に及ばなかったため被害はほとんど発生しませんでした。

普及指導センターは関係機関と連携し、迅速な被害の実態把握を行うと共に、被害を最小限に抑えるための各種情報の提供、技術指導、被害作物の追跡調査等を実施しました。また、センターに被害箇所の復旧や被災者の経営の立て直し等の相談窓口を設置すると共に、関係機関と連携して復旧支援に関する事業説明会及び相談会を開催するなど、被災者の方々の復興支援と就農意欲高揚に向けた活動も展開しました。

### 【復旧支援に関する事業説明会】

8月31 日、朝倉市のサンライズ杷木において、普及指導センターの呼びかけで朝倉市、JA 筑前あさくら、農林事務所、普及指導センターによる復旧支援事業等説明会及び復旧・復興のための相談会を 2 部構成で開催し、80 名を超える被災農家が出席しました。

第 1 部では国、県、市及びＪＡによる災害復旧及び回避対策事業や資金、利子補給といった支援関連制度の説明を行いました。

第 2 部では①農地･農道･水路、②ハウス･機械、③資金･融資、④技術･経営の 4 つのコーナーを設け、農家からの個別相談に応じました。終了直後に、各相談内容の概要を報告し、各機関で事後対応を行うことを確認しました。

＜相談会の様子＞

### 【かき生産者大会】

7月 27 日、朝倉市のサンライズ杷木において、豪雨災害の被災者を激励するとともに生産意欲を鼓舞して儲かるカキづくりを推進する目的でＪＡかき部会生産者大会を開催し、200 名を超える生産者が参加しました。

大会では、小玉排除に向けた摘果の見直しと炭そ病やカメムシ防除の徹底、儲かるカキ経営の取組み、「秋王」の栽培法についての情報提供を行い、生産者のモチベーション維持に努めました。

＜復旧・管理作業が忙しい中、
多くの農家が生産者大会に参加＞

### 【梅雨前線豪雨災害の記録の作成】

今後の豪雨災害等による被害回避、被害を受けた作物の回復対策等の資料とするため、今回の農業面の被害の実態とその後の経過、復旧・復興に向け実施した技術対策や経営支援策等を整理し、「平成２４年７月梅雨前線豪雨災害（朝倉地域）の記録」を作成しました。

## 4 参考資料

### （1）管内の各種表彰農家の紹介

表 彰 名：福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会会長賞
集団の部　優良賞
（平成23年度福岡県大豆作経営改善共進会）
受賞者名：下渕大豆採種研究会

平成24年10年19日、平成23年度福岡県大豆作経営改善共進会表彰式において下渕大豆採種研究会が福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会会長賞を受賞されました。

当研究会は、16戸で大豆フクユタカ11.1haを作付し、29.2tの生産量のうち、17.7tを大豆種子として出荷しました。反収は263kg/10ａと高水準で、種子以外の大豆もすべて１等および２等でした。播種に当たっては５台の播種機を用い、１日で播種作業を終了させています。播種時に培土板を用い、播種と同時に畝を立てています。防除に当たってはブームスプレヤーを所有し、適期の病害虫防除に努めています。これらの諸管理により高品質で多収の大豆生産を実現しました。

表 彰 名：福岡県ビール大麦協議会会長賞
農家の部　優秀賞
（平成24年度福岡県麦作共例会）
受賞者名：　手島敏則氏（筑前町）

平成24年10月19日、平成24年度福岡県麦作共励会表彰式において、手島敏則氏が福岡県ビール大麦協議会会長賞を受賞されました。ビール大麦「ほうしゅん」を11ha、小麦「チクゴイズミ」を10ha作付し、10a当たり収量はビール麦が260kg、小麦が457kgで、全量上位等級でした。ブロードキャスターやブームスプレヤーの導入により機械化一貫作業体系を確立し、10ａ当たりの労働時間は5.7時間と省力化を実現しています。

本人は、3年前から専業農家となり、期間借地したほ場の畦畔草刈り等の徹底により地域の信頼を得て作付面積を徐々に拡大しています。今後は、作付面積拡大はもちろんのこと、スタブルカルチを導入し、土づくりに励み、米・麦・大豆の多収及び高品質を目指したいと抱負を語っています。

## （2）平成24年度主な展示ほの概要

| 対象作物 | 課題名 | 市町村 | 結果の概要 |
|---|---|---|---|
| 水稲 | 平坦地における晩生水稲品種検討 | 朝倉市 | 水稲晩生品種「まいひかり」を試作した。既存品種「にこまる」に比べ成熟期は10/28(+14日)、収量は610kg(+30kg)であった。 |
| 水稲 | 山間地向け極早生系統「ちくし74号」「ちくし82号」の栽培実証 | 東峰村 | 福岡県が育成中の中山間地向け極早生系統「ちくし74号」「ちくし82号」は「夢つくし」と比較すると出穂期はいずれも1日遅く8/5、成熟期はいずれも3日遅く9/9であった。いもち病への抵抗性はいずれも「夢つくし」と同程度であり、収量は「ちくし74号」488kg/10a、「ちくし82号」546kg/10aであった。(標高159m、5/29植) |
| 水稲 | 良食味米生産における穂肥時期の検討 | 筑前町 | 米の食味ランキングで評価の高い「元気つくし」の安定生産を図るため横綱ユーキ穂肥を用いて穂肥時期を検討した。晩期穂肥(出穂前10日)は標準穂肥(出穂前19日)より6%多収(482kg/10a)で、玄米タンパク質含量・検査等級は同等であった。 |
| 大豆 | 排水対策による大豆の出芽及び生育収量の改善 | 朝倉市 | 耕深19cm(麦の播き畝面からの深さ)のプラウ耕により、大豆播種後の排水が促進され、出芽及び生育、収量(394kg,105%)が改善された。 |
| 冬春ナス | 福岡県育成の単為結果性品種「省太」の現地実証試験 | 朝倉市、筑前町 | 管内の生産者4戸で960坪での試験を実施。栽培期間が7月上旬まで続くので、まだ生育途中である。ホルモン処理が省力化できるため、作業が楽ということで、試験を実施している生産者からは、次年度全部「省太」に切り替えたいということで、現在のところ高評価である。 |
| イチゴ | イチゴにおける小型紙ポットを用いて定植期を早める作型の実証 | 朝倉市、筑前町 | 管内の生産者3名の異なる作型で試験を実施。花芽分化を早めるために行う低温暗黒処理が不要のため経費削減と省力化が可能となる。花芽分化の早進化がみられ、生産者からは、1番果実の果形が良く、2番果も連続してくるので現在のところ評価は高いが、課題点もありさらに検討が必要。 |
| 冬春キュウリ | キュウリにおける低濃度二酸化炭素施用による増収技術の確立 | 朝倉市、筑前町 | 冬春キュウリの厳寒期の増収技術として、光合成促進装置の効果的な使用方法について検討。まだ生育途中であるが、二酸化炭素の日中施用については、作業性なども含め、施用方法、施用時間の検討が必要と思われる。 |
| リンドウ | 鉢花リンドウの夏季高温対策に係る遮光資材の導入効果について | 朝倉市 | クールホワイトと防風ネット(2枚重ね)のハウス内温度上昇抑制効果と遮光率の違いによるリンドウ生育への影響を比較した。同じ遮光率の場合、ハウス内温度上昇抑制効果はクールホワイトが優れていた。遮光率が高いほど株張が良くなるため、状況に応じて遮光率の強弱を選択する必要がある。なお、遮光資材(遮光率)による開花促進効果の違いは認められなかった。 |
| カーネーション(ダイアンサス) | ダイアンサスの夏季高温対策に係る遮熱資材の導入効果の確認 | 朝倉市 | カルクール(遮光率30～35%)と寒冷紗(同50%)のハウス内温度上昇抑制効果に有意差は認められたかった。同程度の温度条件であれば、遮光率が低いカルクールで遮光する方が株張が良く、開花も早かった。 |
| キク | 県育成白ギク新品種「雪姫」の栽培実証 | 筑前町 | 年末出しの作型での試験を実施し、定植、消灯、再電時期等について検討。水管理には注意が必要だが、既存品種の「神馬」より脇芽の発生が少なく摘蕾作業が省力でき、重量も確保できるとのことで、生産者からは高評価であった。 |
| カキ | 「早秋」の結実安定対策の検討 | 朝倉市 | 「早秋」の結実安定に効果の高い受粉樹の選抜を行い、調査の結果「朝倉系統」が最も「早秋」の受粉樹として適合することが分かった。今後、「朝倉系統」の穂木を確保し、「早秋」園への導入を推進する。 |
| カキ | スタークル樹幹塗布の効果の検証 | 朝倉市 | フジコナカイガラムシ対策としてスタークル顆粒水溶剤の樹幹塗布の処理方法の検証を行った。より効果的な方法が明らかとなったが、今後も追跡調査が必要である。 |
| イチジク | シートマルチ被覆によるイチジク「とよみつひめ」の果実品質向上について | 朝倉市 | TSアップシート被覆によって、日照量が不足する曇雨天時に着色が向上することが分かった。TSアップシート被覆により、小玉化が助長される場合があることから、収穫期間中はかん水を徹底する必要がある。 |
| イチジク | イチジク「とよみつひめ」の施設(無加温)栽培における収穫予測技術の確立 | 朝倉市 | 施設栽培の収穫段位毎(上段、中段、下段)の果実着果から収穫までの積算温度・積算日数を明らかにした。上段では、露地栽培の積算温度や積算日数に比べ、生育遅延が認められた。今後も調査を継続する必要がある。 |

## (3)平成24年1月～12月の気象

・24 年の気温は 1 月～3 月と 11 月～12 月は平年より低く、麦の収量減や果樹、花き等の生育遅れに影響した。また、11 月以降の低温は、果菜類では果実肥大が遅れ草勢低下、年末出荷の花き類では開花遅延等の影響があった。
・年間降雨量は、平年より 2 割程度多かった。特に 7 月の豪雨により、土砂災害や冠水、浸水による収穫不能及びその後の生育不良など園芸作物を中心に甚大な被害が発生した。
・日照時間は、1 月～3 月、梅雨時期の 6 月～7 月中旬、11 月以降が平年より少なく、春先からのイチゴ等の果菜類の収量減少や秋期のカキの収穫遅れにつながった。

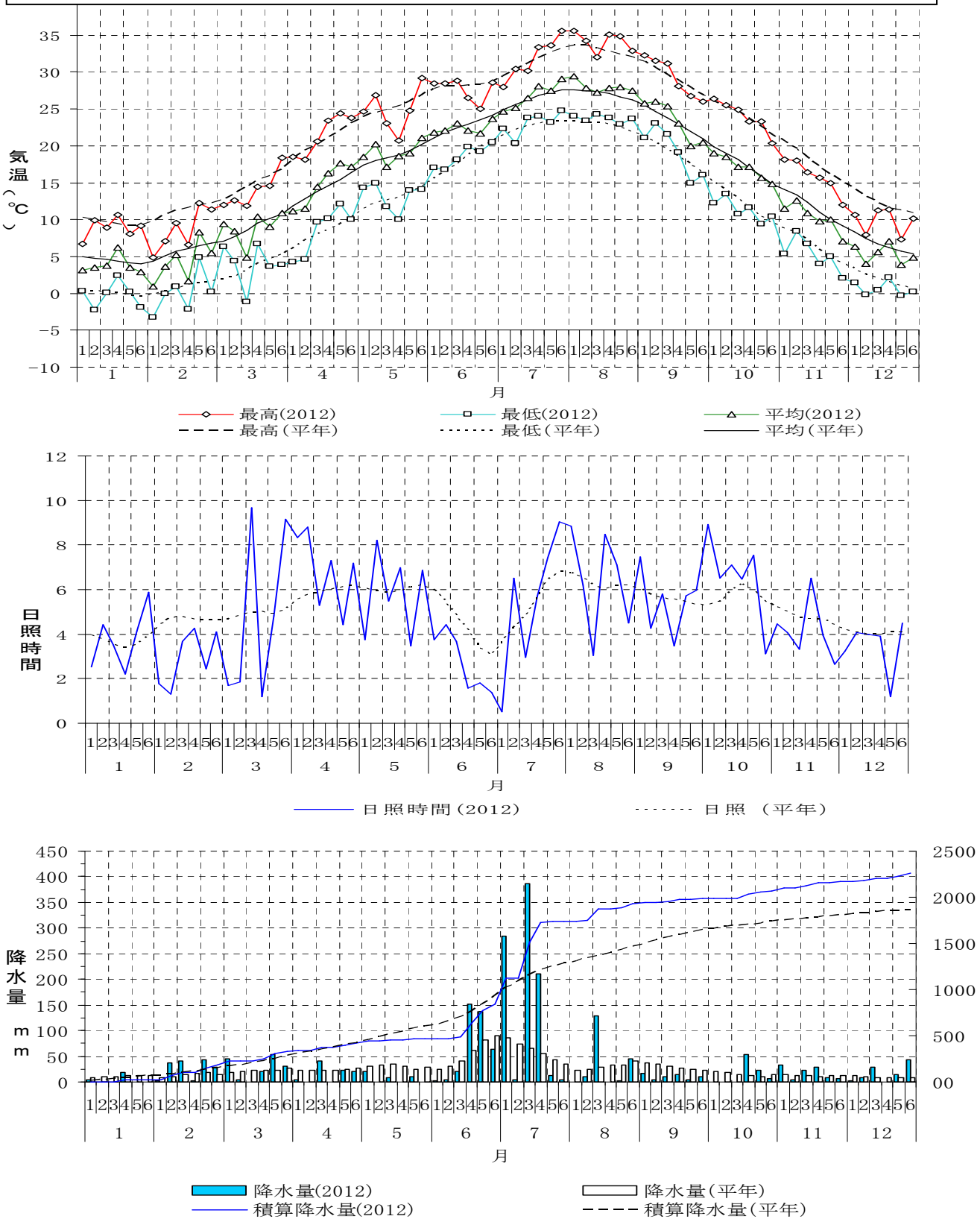



図　平成 24 年の気象の推移（アメダス：朝倉）

（4）現地活動情報等一覧

平成２４年度に普及指導センターがホームページなどで広く提供した情報です。

| No | タ　イ　ト　ル | 執筆者 | 作成日 |
|---|---|---|---|
| 1 | 日本一のイチジク産地を目指して<br>～とよみつひめ部会総会を開催～ | 果樹係 | 4月16日 |
| 2 | 「ちくしW２号」今年も高タンパク目指して<br>～「ラー麦」タンパク向上対策現地巡回指導会開催～ | 水田農業係 | 4月25日 |
| 3 | 「早期夢つくし」今年も順調に田植<br>～24 年産「赤とんぼB」３営農集団で11ha を栽培～ | 水田農業係 | 4月25日 |
| 4 | 冬春キュウリの収量向上を目指して<br>～冬場の炭酸ガス施用で増収効果～ | 野菜係 | 5月9日 |
| 5 | 「母の日」にあさくらの花を！<br>～鉢物カーネーション、アジサイ出荷最盛期～ | 花き係 | 5月11日 |
| 6 | 目指せ日本一のイチジク産地！<br>～新規就農者による「とよみつひめ」生産拡大に向けて～ | 果樹係<br>地域係 | 5月25日 |
| 7 | 第６回食用ネギ類国際シンポジウムが福岡で開催<br>～博多万能ねぎ産地を見学～ | 野菜係 | 6月1日 |
| 8 | フルーツの里「朝倉」から新しいトップバッター現る<br>～新たな複合経営品目ハウスモモの出荷開始～ | 果樹係 | 6月5日 |
| 9 | 「すいとー小石原」、田植と陶器作り体験でにぎわう<br>～水稲の作業受託組合が稲作と陶芸で地域おこし～ | 水田農業係 | 6月5日 |
| 10 | 朝倉地域の農業を支える若手、新たなスタート！<br>～朝倉地域4Hクラブ連絡協議会総会を開催～ | 果樹係 | 6月6日 |
| 11 | 朝倉カキの復興に向けて！<br>～フジコナカイガラムシ、炭そ病対策研修会を開催～ | 果樹係 | 6月6日 |
| 12 | 集落営農法人、真の担い手を目指して<br>～（農）大角ファームで水稲育苗を開始～ | 水田農業係 | 6月28日 |
| 13 | 朝倉は安全・安心農産物を提供します！<br>～安全・安心制度説明会に、直売所出荷農家266名が参加～ | 野菜係 | 7月3日 |
| 14 | 父の日には牛乳(ちち)を贈ろう！<br>～毎年恒例！冗談のような本気のイベント牛乳消費PR大作戦！～ | 園芸課 | 7月3日 |
| 15 | ＧＡＰ（農業生産工程管理）は難しく考えちゃいけないんだ！<br>～ＧＡＰは農産物の仕様書～ | 野菜係 | 7月12日 |
| 16 | 農家経済のしくみを学ぶ<br>～女性農業者の経営力向上講座を開講～ | 地域係 | 7月19日 |
| 17 | カキ生産者、豪雨災害に負けずに頑張ろう！<br>～今年こそカキで儲かるために、生産者大会～ | 果樹係 | 8月1日 |
| 18 | シンテッポウユリの産地強化を目指して！<br>～今年度より共同選別の取り組みスタート～ | 花き係 | 8月6日 |
| 19 | 決算書ってどう見るの？<br>～女性農業者の経営力向上講座　第二講～ | 地域係 | 8月9日 |
| 20 | はばたけ！新農業人！<br>～「平成２４年度新規就農者のつどい」を開催～ | 地域係 | ８月９日 |
| 21 | いちごの経営改善とさらなる技術力向上を目指して！<br>～いちご部会個別経営相談会を開催～ | 野菜係 | 8月16日 |
| 22 | きゅうり部会、個別点検！！<br>～きゅうり部会個別経営相談会を開催～ | 野菜係 | 8月31日 |

| No | タ　イ　ト　ル | 執筆者 | 作成日 |
|---|---|---|---|
| ２３ | 福岡梅雨前線豪雨災害からの復興に向けて！<br>～朝倉市で復旧支援事業等説明会及び相談会を開催～ | 地域係 | 9月11日 |
| ２４ | 敬老の日ギフトに大人気！<br>～鉢物リンドウ出荷最盛期～ | 花き係 | 9月13日 |
| ２５ | 海外の普及事業へ支援<br>～ガーナから朝倉の普及事業を視察～ | 水田農業係 | 9月20日 |
| ２６ | 今、直売所に求められること、できること<br>～朝倉地域農産物直売所連絡協議会研修会開催～ | 地域係 | 10月3日 |
| ２７ | 定植適期はイチゴ苗に直接相談！！<br>～全いちご部会員の花芽検鏡を実施しました～ | 野菜係 | 10月3日 |
| ２８ | シンテッポウユリをつくりませんか？<br>～新規作付け説明会を開催～ | 花き係 | 10月23日 |
| ２９ | 若手米農家の挑戦<br>～有機質肥料でおいしい米はできるのか！？～ | 水田農業係 | 10月25日 |
| ３０ | 「甘木の花」のブランド力の強化を目指して<br>～ＪＡ筑前あさくら鉢花部会　第５回産地展示会を開催～ | 花き係 | 10月31日 |
| ３１ | “めざせ！筑前あさくらの麦 *3,400* “<br>～JA 筑前あさくら「麦の郷づくり振興大会」開催～ | 水田農業係 | 10月31日 |
| ３２ | ダイアンサスに天敵導入<br>～ハダニの天敵「ミヤコカブリダニ」の活躍に期待～ | 花き係 | 11月2日 |
| ３３ | 福岡県産、朝倉の‘三奈木砂糖’つくり始まる<br>～日本一早いサトウキビの刈取りが始まりました～ | 水田農業係 | 11月2日 |
| ３４ | 幼稚園児大満足<br>～４Ｈクラブ主催のラッカセイ掘り取り体験～ | 水田農業係 | 11月6日 |
| ３５ | 人・農地プラン集落座談会を開催<br>～土地利用型担い手の育成に向けて～ | 水田農業係 | 11月14日 |
| ３６ | 「とよみつひめ」の産地拡大を目指して<br>～「とよみつひめ」１年生・次年度栽培希望者研修会の開催～ | 果樹係 | 11月16日 |
| ３７ | 県肉畜共進会 筑前あさくらの牛躍進<br>～飼養管理技術レベルの高さが証明される～ | 園芸課 | 11月21日 |
| ３８ | あさくらの柿、元気発信！<br>～かき部会が‘朝倉復興柿まつり’を開催～ | 果樹係 | 11月29日 |
| ３９ | 花を植えて、花を好きになろう！<br>～保育所園児たちと花壇づくり～ | 花き係 | 12月12日 |
| ４０ | 雇用を活用した農業経営の発展を目指して！<br>～雇用型農業経営研修会を開催～ | 地域係 | 1月31日 |
| ４１ | 「恋活中」あなたも恋のハンターになってみない？<br>～朝倉市４Ｈクラブ主催！ふれあい交流イベント開催！！～ | 果樹係 | 2月12日 |
| ４２ | ６次産業化を目指して新商品開発<br>～女性農業者能力発揮事業への取り組み～ | 地域係 | 2月12日 |
| ４３ | 青ネギの安定生産に向けて若い力を結集<br>～博多万能ねぎ部会青年部全体研修会を開催～ | 野菜係 | 2月12日 |
| ４４ | 野菜係が IPM の実践で知事表彰を受賞！<br>～県内に先駆けたIPM導入による「環境にやさしい野菜づくり」の実践～ | 野菜係 | 2月13日 |

## （5）普及指導センターの活動課題と活動体制

### ①重点課題解決計画

・水田農業の構造改革・園芸振興の支援

| No. | 課　　題 | 期 間(年) |
|---|---|---|
| 1 | 永続的な土地利用型担い手の育成と園芸作物の振興 | H24～26 |

・産地構造改革の産地戦略の実践

| No. | 課　　題 | 期 間(年) |
|---|---|---|
| 2 | 担い手の経営安定によるカキ産地の活性化 | H23～25 |

センター長
林　公彦

- 地域振興課長　原田　英則
  - 地域係長　池田　哲也（地　域）
    - 柳衛　和子（農業経営）
    - 徳永　優子（農業経営）
    - 木原　裕子（地　域）
    - 長尾　秀典（庶　務）
  - 水田農業係長　山室　実（水田農業）
    - 土居　健一（水田農業）
    - 重松　孝子（水田農業）
    - 松野　聡（水田農業）
- 園芸課長　山本　知代美
  - 野菜係長　松本　幸子（野　菜）
    - 別府　恭文（野　菜）
    - 長家　美和（野　菜）
    - 佐々木　優（野　菜）
  - 花き係長　下村　泉（花　き）
    - 冨田　耕平（花　き）
    - 岳　真由美（花　き）
  - 果樹係長　田中　亨一（果　樹）
    - 橋本　文武（果　樹）
    - 谷川　宏行（果　樹）
    - 岡本　愛弓（果　樹）

### ②一般課題解決計画（地域振興課）

| No. | 課　　題 | 期 間（年） |
|---|---|---|
| 3 | 認定農業者の経営力強化 | H22～24 |
| 4 | 新規就農者・女性農業者の育成 | H24～25 |
| 5 | 永続的な水田農業の担い手育成 | H23～25 |
| 6 | 水稲・麦新品種で水田農業を元気に | H22～24 |

### ③一般解題解決計画（園芸課）

| No. | 課　　題 | 期 間（年） |
|---|---|---|
| 7 | GAP取り組みの充実強化と県減農薬・減化学肥料栽培認証取得農家の拡大 | H23～25 |
| 8 | 青ネギの雇用型経営支援と周年安定生産技術の確立 | H23～25 |
| 9 | イチゴ農家の個別支援の重点化と産地の維持強化 | H24～26 |
| 10 | 冬春キュウリの産地強化 | H22～24 |
| 11 | 冬春ナスの産地強化 | H22～24 |
| 12 | 切り花生産技術の向上と新規品目導入による生産拡大 | H23～25 |
| 13 | ブランド強化と計画的生産出荷で鉢物産地の維持強化 | H24～26 |
| 14 | 顧客ニーズに対応した売れる果実づくり | H23～25 |
| 15 | 「とよみつひめ」の産地拡大 | H22～24 |

### ④畜産部門

| No. | 課　　題 | 期間（年） |
|---|---|---|
| 16 | 持続する酪農の経営支援 | H22～24 |
| 17 | 持続する酪農経営基盤の再構築 | H24～26 |

発行：福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター

〒838-0026
福岡県朝倉市柿原 1110-2
TEL　0946-22-2551
FAX　0946-23-1452



| 福岡県行政資料 | |
|---|---|
| 分類番号<br>ＰＡ | 所属コード<br>4703216 |
| 登録年度<br>２４ | 登録番号<br>1 |